

2023 年度（令和 5 年度）
後期
学生による授業アンケート
調査の結果

2024 年（令和 6 年）4 月

志學館大学事務局学務課
志學館大学 I R 室

令和5年度後期 学生による授業アンケート調査の結果

この報告は、学生授業アンケート結果の概要を示し、個々の教員が自己の担当授業のアンケート集計結果を基に自己点検・評価をするために必要な統計的情報を示すことで、授業の改善を考える上での参考にして貰うことを目的とする。また、これらの資料を分析することで、本学の教育改善に資するための情報を得ることを目的とする。

1. 調査の概要と資料

2023年度（令和5年度）後期の質問及び回答選択肢は、2018年度（平成30年度）以来のものを踏襲した2022年度後期と同じで、以下のとおりであった。なお、以下では質問項目の順序を入れ替えグループ分けしてあるが、この分類はアンケート時に示されていたものではない。

【授業スキル関係】

- Q1. 授業の分量は適切であった（5. 強くそう思う～1. まったく思わない）
- Q2. 授業の進み具合は適切であった（同上）
- Q3. 教員の教え方は分かりやすかった（同上）
- Q4. テキスト、プリント、板書、提示資料等は理解の助けになった（同上）
- Q5. 毎回の授業のねらいははっきりしていた（同上）

【アクティブラーニング関係】

- Q7. 授業には、新しい知識の獲得や発見に、学生を導くような工夫や仕組み、働きかけがあった（同上）
- Q8. 質問や意見を述べる時間が設定されていた（同上）
- Q9. 予習、復習の課題やアドバイスは適切に与えられた（同上）
- Q14. 積極的な参加（自ら考えながらの受講）が求められる授業だった（同上）

【教育の質保証関係】

- Q6. 授業は講義要項に沿った内容であった（同上）
- Q16. この科目の「到達目標」（シラバスに記載）に達することができたと思うか

【学生の学習行動関係】

- Q10. この科目の予習に毎週当てた平均時間（1. していない、2. 30分程度、3. 60分程度、4. 90分程度、5. それ以上）
- Q11. この科目の復習に毎週当てた平均時間（同上）
- Q12. 授業時間内にこの科目を熱心に学習した（5. 強くそう思う～1. まったく思わない）
- Q13. 授業時間外にこの科目を熱心に学習した（同上）
- Q15. あなた自身の取組姿勢の総合評価（10. 高⇔1. 低）

その他 自由記述による意見

Q14は2018年度（平成30年度）のQ10と同じで、Q16は2018年度に新設した質問である。Q8は質問の意図をより明確にするために2021年度後期から「質問や意見を述べる時間が設定されていた」に改めた。Q10とQ11の学習時間の「5. それ以上」は簡易的に120分として分析した。演習科目と共通教育科目のみに係る質問には無回答のものが多かったため、また、大学院課程では資料数が少なかったため、分析対象としなかったのは、2018年度以降同じである。

巻末には質問項目が一定の安定性をみた2019年度前期からの各項目平均値と標準偏差を一覧にして附表としてまとめている。

2. 分析方法と結果

学士課程の今期の開講授業から、アンケート調査の対象となっていない授業や回答なしの授業を除き、254 [264, 249, 276, 260, 280, 253, 262, 249, 256] 授業で回答が得られた（[]内は、表記順に2023前期、2022後期、2022前期、2021後期、2021年度前期、2020後期、2020前期、2019後期、及び2019前期の値である。以下、括弧内において同じ）。このうち回答数が10以上の146 [161, 145, 194, 132, 189, 130, 186, 148, 160] 授業を分析対象とした。2018年度（平成30年度）までは回答数5以上の授業を分析対象としていたが、2019前期以降は回答者10以上の授

業科目としてきている。回答数が10未満で分析対象としなかった授業は108 [106, 104, 82, 128, 91, 123, 76, 101, 96] 授業であった。回答数10以上を分析対象とした理由と、それゆえに分析結果の解釈に統計学的には一定の留保が必要である点はこれまでと同じである。

各授業の質問項目ごとの評価点は、複数の学生（10人以上）による回答の平均値で代表した。これにより各授業が15の質問に対して1つずつ計15の評価点を持つことになる。1つ1つの授業を分析単位として、以下、質問項目ごとに全授業にわたる平均値とその標準偏差を算出した。

2.1 授業の内容及び方法

(1) 回答率

分析対象とした146 [161, 145, 194, 132, 189, 130, 186, 148, 160] 授業の平均回答率（全受講者数で全回答数を除いたもの）は0.45 [0.44, 0.38, 0.50, 0.39, 0.58, 0.36, 0.37, 0.44, 0.43] で、昨期とほぼ同値で、開講期を揃えて比較（1年前の後期分の数値0.38と比較）すると大きく向上していた。なお、アンケート対象すべてである254 [267, 249, 276, 260, 280, 253, 262] 授業では、回答率は0.42 [0.42, 0.36, 0.51, 0.36, 0.49, 0.33, 0.36] であった。267授業での回答率の平均は、46.2% (SD=.22) [44.5% (SD=.22), 41.0% (SD=.23), 55.1% (SD=.23), 38.2% (SD=.20), 50.3% (SD=.25)]、中央値は44% [39%, 36%, 55%, 35%, 48%] であった。回答率が8割を超えている科目が7.9% [8.6%, 5.6%, 17.4%, 5.4%, 17.5%]、3割を下回る授業が23.6% [27.0%, 39.0%, 17.4%, 41.2%, 21.1%]、2割を下回る授業が12.6% [10.1%, 18.1%, 6.2%, 15.0%, 10.7%] あった。回答率に関しては例年、前期分データは後期分よりも幾分高い傾向にあるが、今回は2022後期と比して、8割を超える授業は増加し、3割を下回る授業は半減、2割を下回る授業も減少していることから、全体的な回答率の向上が見て取れる。ただし、一部の授業では教員から学生への周知が未だ不十分であることも依然として指摘できる。

(2) 個票の質問別回答平均値

従前、授業の改善状況は、当該学期と一期前のデータを対置し、主にその比較によって行ってきた。この比較は、ある程度俯瞰的に捉えた大学全体での授業モニタリングといった点でメリットがあったが、比較の対象となる授業がそもそも異なっているという点に難があった。そこで昨期より当該学期と2期前のデータとの比較、つまり今年度前期と昨年度前期、今年度後期と昨年度後期の比較を行うこととした。これによって、比較する授業群は理屈の上ではほぼ同一となり、変化や改善の様子をより直接的に捉えやすくなることが期待できる。

授業スキル関係のQ1～Q5の質問への、授業ごとの回答の平均値の分布を図1にヒストグラムで示す。比較のために、左側に今期（2023後期）、右側に昨年度同期（2022後期）の結果を示す（以下、同じ。）。以下の記述は、特に断りのない場合、2022後期データとの比較を行っている。縦軸には相対度数（割合）を取っている。

授業スキル関係のQ1～Q5の結果を図1に示す。Q1 [授業の分量] では、モードは4.5で変化はない。4.75が大きく増え、4.25が減っている。Q2 [授業の進み具合] では、モードは4.5で変化はないがわずかに減り、4.75が増えている。Q3 [教員の教え方] は、モードは4.5で変化はないがわずかに減り、4.75が増えている。Q4 [教材等] は、モード4.5で変化はないが、4.75が減り、4.25が増えている。Q5 [授業のねらいの明確さ] は、モードは4.5のままであったが、4.75が大きく増え、4.25が大きく減っている。全体的には、授業スキル関係の評価は、分布がより正規形に近くなりつつあり、変化の度合いは小さいものの改善の方向にあるか、現状を維持しているように見える。

アクティブラーニング関係のQ7～Q9, Q14の結果を図2に示す。アクティブラーニング関係の分布は、これまで授業スキル関係に比べて、左に裾を引く程度が小さく、より正規型に近いものであったが、今回はQ8 [質問・意見時間の設定] で2022後期及び2023後期から引き続き扁平な分布となっており、4から4.75までピークのない分布を示していた。この傾向は3期続けて示されている。Q7 [新しい知識に導く工夫・仕組み・働きかけ] は、2022前期ではピークのはっきりしない比較的扁平な分布であったが、2023前期には4.25にモードを持つ学習スキル様の分布になり、今回（2023後期）はモードが4.5に上がっている。改善の様子が見て取れる。Q8 [質問・意見時間の設定] は、「質問や意見に適切に対応してもらえた」から「質問や意見を述べる時間が設定されていた」に2021後期に改めたが、先述の通り、ピークのはっきりしない全体に扁平な分布とな

っていた。標準偏差も比較的大きく、授業間で未だばらつきは大きいことが示唆される。Q9 [課題やアドバイスの適切さ] は、モードも4.25のままで、分布もほとんど変化はない。Q14 [積極的な受講 (自ら考えながらの受講)] は、モードが4.25で変化はないが、わずかに上昇している。分布は正規分布に近づいている。

教育の質保証関係のQ6, Q16の結果を図3に示す。Q6 [講義要項に沿った授業] では、モードは4.5で変化なく、その他も大きな変化はない。Q16 [到達目標に達せられたか] では、モード4.25で変化はなく、分布もほぼ同じであった。

授業ごとのQ1~Q9, Q14及びQ16の質問への回答の評価点の平均値と標準偏差を、質問グループに分けて、表1に2022後期分の平均値と共に示す。

個々の授業で、上記の評価からの「外れ」が小さい (平均的である) と判断する目安として、(平均値 \pm 0.5 \times 標準偏差の値) を、表1の下2段 (表の上・下限値) に示す。授業科目ごとの平均値がこの範囲に入っていれば「ほぼ平均的レベルにある」と評価できる (統計学的には厳密なものではない)。授業ごとの、教員による自己点検に供されたい。

表1 授業の質問ごとのアンケート結果の平均値と標準偏差等 (2022後期)

	授業スキル関係					AL 関係				質保証関係	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
2022後期	4.32	4.31	4.29	4.40	4.32	4.25	3.99	4.05	4.10	4.30	4.17
平均値	4.33	4.32	4.27	4.39	4.34	4.29	4.09	4.08	4.16	4.33	4.21
標準偏差	.27	.29	.33	.25	.29	.29	.44	.33	.35	.23	.21
上限値	4.47	4.46	4.44	4.51	4.49	4.43	4.31	4.25	4.36	4.44	4.32
下限値	4.20	4.17	4.11	4.26	4.20	4.14	3.87	3.92	4.00	4.21	4.11

(3) 「優れている」及び「改善を要する」授業数

明らかに優れている又は改善が必要と判断する目安として、平均値 \pm 1.96 \times 標準偏差の値を表2示す (表2の上・下限値)。また、この上・下限値の範囲を外れ、「優れている」と「改善が必要である」と評価される授業数を中2段に示す。下2段には比較のために2022後期分を示す。

今期は、質問項目ごとの「優れている」が0~3授業 (0~4, 0~2, 0~4, 0~6, 2~8, 1~5, 1~4, 0~5, 0~2授業) で、2022後期と比べ同じであった。「改善を要する」は、3~8授業 (5~10, 0~5, 5~10, 1~6, 3~9, 2~7, 5~10, 1~6, 4~9授業) で2022後期と比して、全体に増加している。いったん高めた授業の質が低下していくことは考えにくいので、全体的な分布に依存するため一概には言えないが、評価者 (学生) の評価がシビアになっている可能性も考えられる。なお、優れている」授業より「改善を要する」授業が多い傾向は、図1及び図2で見られるように、左に強く裾を引く分布を示す項目の場合、平均値から下方に大きく離れた値が多いために生じたものである。

表2 授業の質問ごとのアンケート結果の平均値と標準偏差等 (2022後期)

	授業スキル関係					AL 関係				質保証関係	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.86	4.86	4.93	4.89	4.91	4.85	4.96	4.74	4.87	4.78	4.62
下限値	3.80	3.74	3.62	3.89	3.78	3.72	3.22	3.43	3.49	3.88	3.81
優れている授業数	1	0	1	1	0	1	0	2	0	1	3
改善が必要な授業数	5	7	7	7	8	6	5	7	4	5	3
優れている (2022後期)	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0
改善が必要 (2022後期)	4	2	3	3	3	0	0	3	3	4	5

(4) 回答平均値の分布の変化に見られる改善と課題

適切に実施されたと受け止められている授業が多く、またその程度が向上していることを示唆している傾向は、2017年度（平成29年度）から継続している。

質問グループごとでみると、授業スキル関係に比べて、アクティブラーニング関係及び教育の質保証関係では、学生の納得度はやや低いという傾向が継続している。ただし教育の質保証関係では、授業スキル関係と遜色ないレベルまで向上してきている。アクティブラーニング関係及び教育の質保証関係に係る具体的項目は、Q8, Q9, Q14, Q16であるが、それらは学生の能動的な学習を引き出す取り組みや、シラバスに記載された「到達目標」に達することができたかといった観点に関するものであるが、これらの点では課題が残っていることを示唆している。この点は、過去9期の報告書で、Q8, Q9, Q14, Q16の一群で回答平均値が最も低いと指摘した課題が続いていると言える。教員が授業計画・実施上で未だ意識する程度が低いことや学生に対する科目の到達目標の説明不足等を反映していると推量され、依然として、今後の課題である

また2021年度後期より質問内容を変更したQ8の平均値は、今回もわずかに4を上回る程度であり、Q9と同じく、他と比較すると低い値に留まっている。

2.2 学生の学習行動

学習行動に関する質問 Q10～Q13, Q15 の結果を、図4と表3に示す。Q10（予習時間）及びQ11（復習時間）は、選択肢「1. していない」を0分、「2. 30分程度」を30分、以下順に「3. 60分程度」は60分、「4. 90分程度」は90分、「5. それ以上」は120分と便宜的にリコードし処理した。

予習時間（Q10）の平均は18分（18, 19, 19, 17, 18, 17, 17, 15, 17分）、復習時間（Q11）は23分（24, 25, 26, 25, 26, 24, 23, 21, 22分）で多くなく、例年とほぼ変わらなかった。予習時間のモードは20分、復習時間のモードは30分で昨期と変化はなく、分布の形もほぼ同じであった。

ヒストグラムからも、予習より復習にやや重みが置かれている傾向が看取できる。予習も復習も全く行っていないとの回答が、引き続き多かったが、少数ながら1時間以上の予習、復習を引き出している授業もあった。

授業内外での学習熱心度（Q12, Q13）では、これまでの結果と同様に、Q13「授業外学習」の自己評価が際立って低かった。授業時間内には総じて熱心に取り組んでいるが、授業時間以外での学習にはあまり取り組んでいない様子は、先の予習及び復習時間が少ないという結果と整合している。

Q15「自己の学習態度の総合評価」の平均値は、5点満点に換算すると、4.0（4.0, 4.0, 4.0, 4.0, 4.0, 4.0, 3.9, 3.9）程度であった。授業外の学習が少ないにも関わらず、当該評価が比較的高いといったことは、授業外での学習の不活発さをあまり意識していない本学学生の学習意識を示すものと考えられる。2022後期から引き続き、今回もQ15のモードが1つ上がり8.5であった。

表3 授業の学習行動に関する質問ごとの結果の平均値と標準偏差等（2023後期）

	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
2022後期	18.5	25.3	4.27	3.76	8.04
平均値	17.7	23.4	4.29	3.76	8.06
標準偏差	10.4	10.3	.22	.31	.51
上限値	22.9	28.6	4.40	3.92	8.32
下限値	12.5	18.2	4.18	3.60	7.80

2.3 自由記述

過去には、自由記述欄への記載事項を、ポジティブとネガティブな意見に区分した検討を行ったこともあったが、全体的な傾向に顕著な変化は、引き続き見られないと判断し、今期もこの分析は割愛した。

3. まとめ

本期の質問項目を、授業のスキル（内容や方法を含む）、アクティブラーニング、教育の質保証関係に分けた分析は、8期前から継承したものである。質問項目ごとの評価点の平均値及びその分布から、アクティブラーニングや教育の質保証に関する領域での学生の納得度はやや低いとみられる点は、8期前から変わっていない。

学生の学習態度については、これまでと同様に、予習・復習に割いている時間や授業外学習への取組み度からみて、改善はあまり進んでいないと評価できる。もちろんこの改善には、時間を要すると考える。

これらの結果から、本学の授業は、その実施手法は確実に改善しているが、学生の自主的な学習行動を引き出したり、学習の達成感を感じさせるところまでは至っていないという点は、改善に向けた課題として続いている。

2017年度（平成29年度）の本分析開始以来、質問事項や選択肢に改善を加えてきた。現在の質問は、学生の能動的な学習行動や学修の達成感を問う質問も含まれており、今後暫くは概ね継続したモニタリングに利用できるものと考えられる。

回答率は、先述の通り、後期分は前期実施分よりも全体的に悪化する傾向にあるが、今期の回答率はどの指標を見ても昨期（2023前期）とほぼ同じで、従って、前年度同期（2022後期）と比して大きく向上していた。授業担当者を始め、関係各所の働きかけに依るところだろう。ただし一部ではいまだ不十分な授業もあり、今後とも授業アンケート実施の趣旨に照らし、授業担当者からの働きかけを行うなど、一層の回答率向上が望まれる。そのためにも調査結果等を授業改善に活用する姿勢が授業担当者には求められる。

また今回の調査で特に記しておくべき点は、いずれもAL関係を問うQ8〔質問・意見時間の設定〕とQ9〔予復習課題等の適切な提示〕の評価の低さである。この傾向は調査開始時点からあるものの2022前期に両者ともはじめて3点台に低下し、その後多少の上下はあっても、いずれの調査回でも他の観点と比すると際だって評価が低い。Q8は「質問や意見を述べる時間が設定されていた」かを問う項目であるが、本学が推進を標榜するアクティブラーニングの第一歩となる観点である。授業内容によってはその設定は容易ではない場合も多いが、蓄積してきた従前の授業方法と上手く折り合いを付け、これらを模索する取組の始動が望まれる。一方、Q9は「予習、復習の課題やアドバイスは適切に与えられた」かを問うものであるが、単位の実質化に向けた学習時間の確保のために、これを学生の自主性のみ委ねるのは自ずと限界が生じよう。この意味で、授業担当者による適切な課題やアドバイスの提供は、少なからず必要となってくるものであろうし、この観点の評価が高くなった暁には、学習時間に関する数値も連動し高まるであろう。

同じAL関係のQ7〔新しい知識に導く工夫・仕組み・働きかけ〕は、2022前期にいったんピークのはっきりしない扁平な分布となったが、その後、前々回（2022後期）、前回（2023前期）と正規分布に近くなり、今回もこの傾向が続いている。平均点も授業スキル関係とほぼ同等であり、授業改善の様子が看取でき、学生にも評価されている。

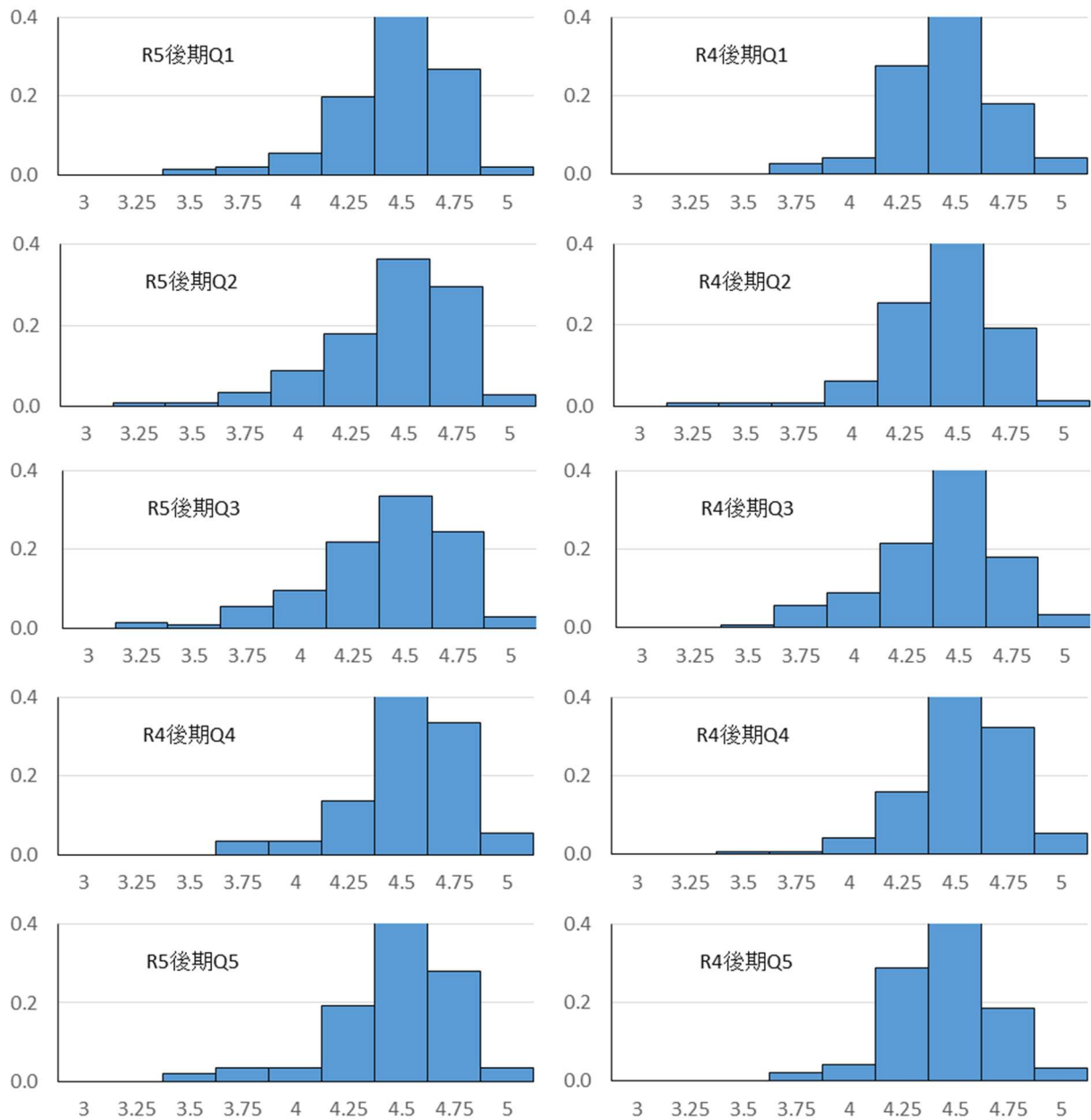


図1 質問項目ごとの回答平均値の分布 (Q1~Q5) : 授業スキル関係

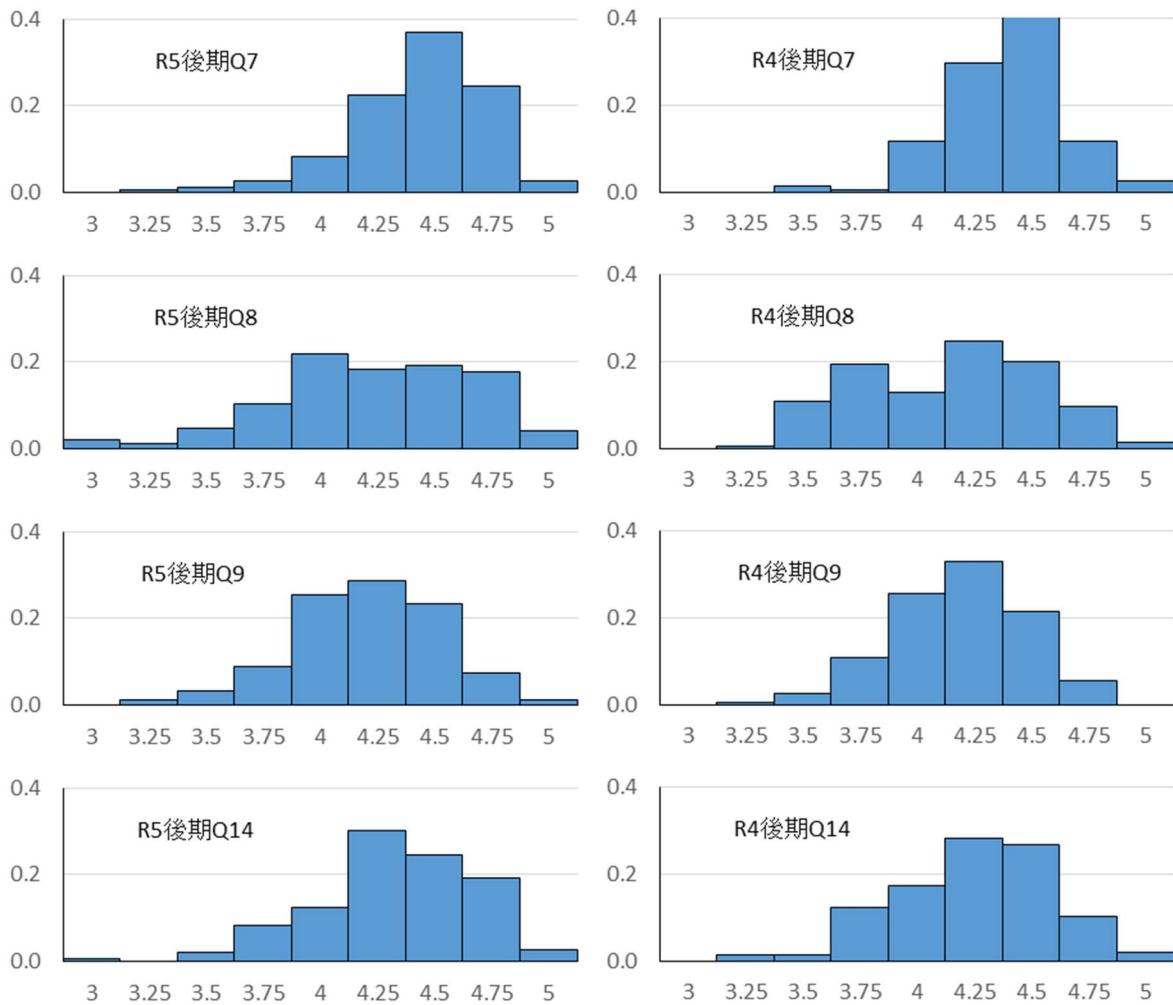


図2 質問項目ごとの回答平均値の分布 (Q7～Q9, Q14) : アクティブラーニング関係

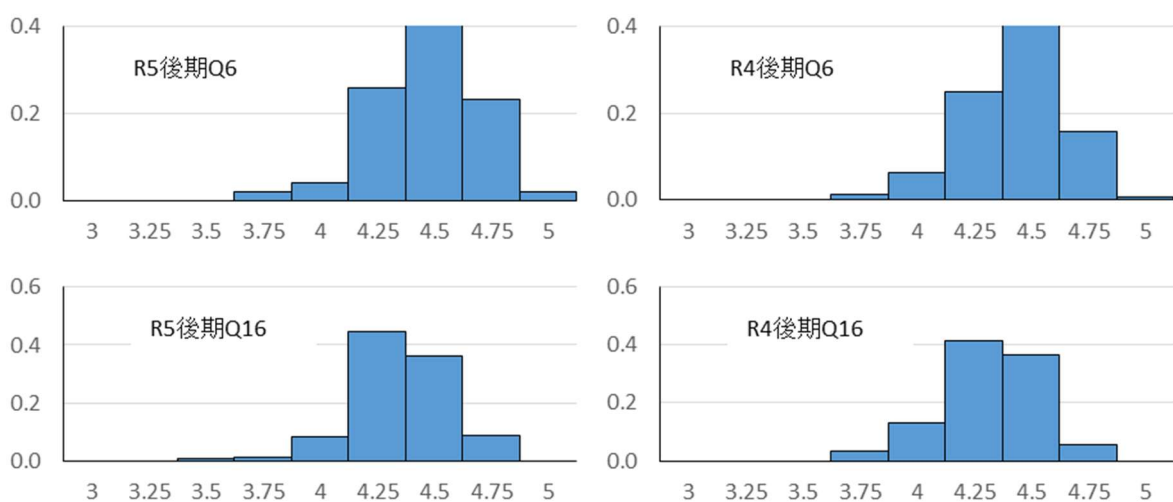


図3 質問項目ごとの回答平均値の分布 (Q6, Q16) : 教育の質保証関係

附表1 Q1～Q9, Q14及びQ16の平均値及び標準偏差

【前期】

	授業スキル関係					AL 関係				質保証関係	
2019 前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.21	4.17	4.14	4.25	4.22	4.16	4.14	4.12	4.01	4.02	4.00
標準偏差	.29	.33	.39	.33	.33	.31	.34	.34	.34	.40	.27
2020 前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.23	4.19	4.15	4.28	4.23	4.13	4.13	4.01	4.02	4.18	4.04
標準偏差	.31	.34	.41	.31	.30	.35	.34	.32	.37	.26	.26
2021 前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.26	4.23	4.19	4.31	4.26	4.19	4.16	4.07	4.07	4.25	4.12
標準偏差	.25	.27	.33	.28	.28	.29	.28	.30	.33	.23	.21
2022 前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.26	4.23	4.19	4.32	4.27	4.19	3.93	3.98	4.07	4.24	4.11
標準偏差	.26	.30	.38	.31	.29	.34	.51	.33	.42	.24	.24
2023 前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.30	4.28	4.23	4.33	4.30	4.23	3.99	4.01	4.09	4.32	4.15
標準偏差	.25	.26	.33	.29	.26	.31	.46	.31	.37	.23	.22

【後期】

	授業スキル関係					AL 関係				質保証関係	
2019 後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.26	4.24	4.21	4.33	4.29	4.19	4.19	4.07	4.06	4.23	4.07
標準偏差	0.28	0.30	0.35	0.28	0.27	0.29	0.30	0.28	0.35	0.34	0.20
2020 後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.29	4.28	4.24	4.39	4.32	4.21	4.18	4.09	4.08	4.27	4.11
標準偏差	0.25	0.28	0.33	0.26	0.26	0.28	0.30	0.28	0.34	0.24	0.23
2021 後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.33	4.33	4.28	4.41	4.36	4.26	4.04	4.09	4.12	4.33	4.18
標準偏差	0.26	0.28	0.33	0.27	0.26	0.29	0.37	0.27	0.33	0.23	0.21
2022 後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.32	4.31	4.29	4.40	4.32	4.25	3.99	4.05	4.10	4.30	4.17
標準偏差	0.26	0.30	0.38	0.31	0.29	0.34	0.51	0.33	0.42	0.24	0.24
2023 後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
平均値	4.33	4.32	4.27	4.39	4.34	4.29	4.09	4.08	4.16	4.33	4.21
標準偏差	.27	.29	.33	.25	.29	.29	.44	.33	.35	.23	.21

附表2 Q10～Q13及びQ15の平均値及び標準偏差

【前期】

	学習行動関係				
2019 前期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	17.4	21.9	4.08	3.65	7.76
標準偏差	12.4	10.7	0.30	0.37	0.66
2020 前期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	16.6	23.4	4.16	3.65	7.87
標準偏差	11.0	11.9	0.28	0.37	0.60
2021 前期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	18.3	25.6	4.20	3.77	7.92
標準偏差	11.2	10.6	0.24	0.33	0.54
2022 前期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	19.3	26.1	4.22	3.71	7.94
標準偏差	11.8	11.6	0.27	0.37	0.61
2023 前期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	17.9	23.7	4.24	3.66	7.92
標準偏差	12.6	11.8	.25	.35	354

【後期】

	学習行動関係				
2019 後期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	15.0	20.7	4.13	3.63	7.89
標準偏差	10.4	10.0	0.27	0.36	0.52
2020 後期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	16.5	23.5	4.20	3.73	7.97
標準偏差	11.4	9.9	0.25	0.31	0.55
2021 後期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	16.7	24.7	4.27	3.83	8.09
標準偏差	10.0	10.0	0.25	0.31	0.53
2022 後期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	18.5	25.3	4.27	3.76	8.04
標準偏差	11.7	10.4	0.25	0.31	0.50
2023 後期	Q10	Q11	Q12	Q13	Q15
平均値	17.7	23.4	4.29	3.76	8.06
標準偏差	10.4	10.3	.22	.31	.51

附表3 「優れている」及び「改善を要する」授業数（上・下限値：平均値±1.96×標準偏差）
【前期】

	授業スキル関係					AL 関係				質保証関係	
2019前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q6	Q16
上限値	4.78	4.82	4.91	4.90	4.86	4.77	4.80	4.80	4.67	4.80	4.53
下限値	3.65	3.52	3.38	3.61	3.58	3.55	3.48	3.45	3.35	3.24	3.48
優れている数	1	1	1	0	1	0	2	0	1	0	2
改善が必要な数	8	8	7	4	9	7	8	7	7	6	4
2020前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.83	4.86	4.95	4.90	4.83	4.82	4.79	4.64	4.75	4.69	4.55
下限値	3.63	3.52	3.35	3.66	3.64	3.44	3.46	3.38	3.29	3.67	3.54
優れている数	0	1	0	0	0	2	4	1	4	1	4
改善が必要な数	8	10	8	7	8	6	7	5	6	10	5
2021前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.75	4.76	4.83	4.86	4.81	4.75	4.71	4.65	4.73	4.70	4.53
下限値	3.77	3.69	3.54	3.76	3.72	3.63	3.60	3.48	3.42	3.80	3.71
優れている数	4	4	4	2	3	3	5	5	4	5	8
改善が必要な数	6	7	3	5	9	5	3	6	4	4	5
2022前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.77	4.81	4.93	4.93	4.84	4.85	4.92	4.63	4.90	4.71	4.58
下限値	3.75	3.64	3.46	3.72	3.70	3.53	2.94	3.33	3.25	3.77	3.63
優れている数	4	4	1	0	2	0	0	1	2	4	4
改善が必要な数	8	6	8	8	7	10	5	7	5	8	7
2023前期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.80	4.80	4.88	4.90	4.82	4.83	4.90	4.62	4.81	4.77	4.58
下限値	3.80	3.76	3.59	3.76	3.79	3.63	3.08	3.41	3.37	3.87	3.72
優れている数	0	0	0	0	1	3	0	4	1	2	1
改善が必要な数	8	7	7	10	6	6	3	3	3	6	4

【後期】

2019後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.80	4.83	4.90	4.88	4.81	4.76	4.78	4.62	4.76	4.68	4.56
下限値	3.72	3.65	3.52	3.78	3.76	3.62	3.60	3.53	3.37	3.78	3.59
優れている数	2	0	2	2	3	1	3	5	2	2	3
改善が必要な数	3	4	6	4	3	3	6	2	1	1	3
2020後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.79	4.83	4.88	4.91	4.83	4.76	4.76	4.65	4.75	4.74	4.57
下限値	3.79	3.73	3.59	3.88	3.81	3.66	3.59	3.53	3.41	3.80	3.65
優れている数	3	2	3	1	2	3	5	3	2	2	2
改善が必要な数	5	6	4	6	5	7	2	4	3	4	6
2021後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.85	4.87	4.93	4.93	4.87	4.83	4.77	4.62	4.77	4.78	4.59
下限値	3.82	3.79	3.67	3.88	3.84	3.69	3.31	3.55	3.46	3.89	3.76
優れている数	1	1	0	1	0	1	4	4	2	2	6
改善が必要な数	6	7	6	5	6	3	2	3	3	5	1

2022後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.83	4.89	<u>5.02</u>	<u>5.00</u>	4.89	4.91	4.98	4.70	4.93	4.77	4.65
下限値	3.81	3.72	3.55	3.79	3.75	3.60	2.99	3.40	2.28	3.83	3.70
優れている数	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0
改善が必要な数	4	2	3	3	3	0	0	3	3	4	5
2023後期	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q7	Q8	Q9	Q14	Q6	Q16
上限値	4.86	4.86	4.93	4.89	4.91	4.85	4.96	4.74	4.87	4.78	4.62
下限値	3.80	3.74	3.62	3.89	3.78	3.72	3.22	3.43	3.49	3.88	3.81
優れている数	1	0	1	1	0	1	0	2	0	1	3
改善が必要な数	5	7	7	7	8	6	5	7	4	5	3